

エベネゼル緊急基金

EBENEZER
OPERATION EXODUS

祈り続ける

「エルサレムよ。わたしはあなたの城壁の上に見張り人を置いた。昼の間も、夜の間も、彼らは決して黙っていてはならない。【主】に覚えられている者たちよ。黙りこんではならない。主がエルサレムを堅く立て、この地でエルサレムを栄誉とされるまで、黙っていてはならない。」イザヤ書62章6-7節

ユダヤ人たちがイスラエルに帰還するのを援助するクリスチャンの働き

「まして神は、夜昼神を呼び求めている選民のためにさばきをつけないで、いつまでもそのことを放っておかれることがあるでしょうか。あなたがたに言いますが、神は、すみやかに彼らのために正しいさばきをしてくださいます。…」ルカ 18章7-8節

祈り続ける

クリスチャンの中には、真の信仰があれば一度祈るだけでよいと考える人達もいます。つまり、何度も祈るなら不信仰であると考えています。しかし、神のみことばには、私たちは忍耐強く祈り続け、あきらめてはならないと書いてあります。今は、私たちは今までにないほど祈りの献身が必要な時代なのです。

イエスは、しつこく求めるやもめのたとえにおいて、この点を強調しています。

「いつでも祈るべきであり、失望してはならないことを教えるために、イエスは彼らにたとえを話された。…まして神は、夜昼神を呼び求めている選民のためにさばきをつけないで、いつまでもそのことを放っておかれることがあるでしょうか。あなたがたに言いますが、神は、すみやかに彼らのために正しいさばきをしてくださいます。しかし、人の子が来たとき、はたして地上に信仰が見られるでしょうか。」ルカ18章1-8節

このたとえから、いくつかの重要なことを学ぶことができます。

- ・祈りの生活の重要さ
- ・困難に直面した時に粘り強く求めることが必要
- ・信仰の重要さ
- ・キリストの再臨と神の裁き

神様がエベネゼル出エジプト作戦に、ユダヤ人がイスラエルに帰還するのを支援するように示されたのは、30年前のエルサレムでの祈りの大会においてでした。エベネゼルのリーダーたちの間には、この実質的な支援は、祈りに支えられながら継続していくべきだという確信があります。私たちの信仰は神様にあり、「わたしの聖所が永遠に彼らのうちにあるとき、諸国の民は、わたしがイスラエルを聖別する【主】であることを知ろう。」(エゼキエル38章27節) また、イエス様は私たちに終わりの時代を意識しつつ祈りの生活を持つことの大切さを教えてくださいました。「…しかし、あなたがたは、やがて起ころうとしているこれらすべてのことからのがれ、人の子の前に立つことができるように、いつも油断せずに祈っていなさい。」(ルカ21章36節)

困難の中で忍耐することは非常に大切です。なぜならイエス様は私たちの人生は楽で簡単なものであるとは決して約束されていないからです。しかし、私たちは決して一人ではないと約束されています。なぜなら、聖霊様がすべての困難の時にもともにいてくださるからなのです。

悲しいことに、西洋社会においては、「忠実さ」というものはあまり評価されてきませんでした。しかし、神様は私たちに忠実であるようにと言われます。ギリシャ語の原語では、pistoteetaで、pisteeすなわち信仰ということばから派生したことばです。聖書では、神様からの祈りの答えが来るまで私たちが祈りにおいて忠実であるようにと語っています。ここにおいて、信仰と忠実さがつながっていることがわかります。ですから、私たちは、不忠実な、文字通りには信仰を保たないという意味であるということができるでしょう。

アリヤー支援に私たちが取り組んでいるのは、今それが人気があるからとか、私たちが何かに役に立っているという気持ちにさせてくれるから、というわけではありません。これは、聖なる神様からの召しであり、それには、努力も資源も時間も必要なのです。このことによって、神様がイスラエルに対して持っておられるご計画を理解していない人達に拒絶されるかもしれません。あなたは、神様が別の導きをされるまでの間、この働きにかかわることをする準備はできていますか？

イエス様が帰って来られる時に、本当の信仰を見出すでしょうか？イエス様は、私たちが神の御国の働きで忙しくしているのを見るでしょうか。それとも、自己中心的で不従順な教会を見るでしょうか。サタンは何としてでも私たちが神の御心をすることを妨げようとしています。サタンの攻撃と介入はとても強いいため、それによって私たちはあきらめて主の御計画に従うことをやめてしまうかもしれません。しかし正しいことを行うことには、必ず報いがあります。イザヤ書55章11節には、神のことばは必ず目的を成し遂げると書かれています。決してむなしく帰ってくることはないのです。

悪魔の策略の一つは、私たちが世俗的な生き方へと誘惑し、神様を中心とした教えや弟子訓練に注意を傾けなくさせ、聖書のみことばをリベラルな解釈に対して心を開くようにさせることです。これによって、私たちは、使徒パウロがコロサイ2章8節で説明した状況に陥るかもしれません。「あのむなしい、だましごとの哲学によってだれのとりこにもならぬよう、注意しなさい。それは人の言い伝えによるもの、この世の幼稚な教えによるものであって、キリストによるものではありません。」



ヨハネス・バーテル
Johannes Barthel
地域コーディネーター



では、ヘブル書 12 章 1, 2 節を読んでみましょう。
 「こういうわけで、多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けようではありませんか。信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをもものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。」

ヨハネの福音書 14 章 1 - 3 節では、イエス様が父のところに行ったら私たちのための場所を用意され、また戻ってきて私たちを天の新しい家へと連れて行ってくださると約束しています。私たちにとって模範となるのはアブラハムの信仰（ヘブル書 11 章 8 - 10 節）です。アブラハムはどこへ行くかわからないのに、神様を信頼して導きに従ったのです。

イエス様は私たちがイエス様が帰ってこられるように祈ることを願っておられます。（黙示録 2 章

20 節）そして、そのために務めることを願っておられます。ペテロは、私たちの地上における働きは、メシヤの再臨の時に影響を与えると語っています。（IIペテロ 3 章 12 節）ユダヤ人のアリヤーは、おそらく主の再臨があまり遠くないことの印として最も目に見えるものと言えるでしょう。主が再臨される時、主は正義をもって裁きを下されます。何も隠れるものはありません。現在私たちはこの世の不義や不正の中で苦しまなければなりません、間もなく神の裁きが納め、シャローム（平和）がこの地をおおうでしょう！

ですから、私たちの祈りと、アリヤーのための働きにおいて疲れることなく、むしろ日々宣言して祈りましょう。「主よ来てください。あなたの御国がイスラエルの聖なる町エルサレムにおいて確立しますように。」

用語解説

アリヤー (Aliyah):
 ユダヤ人が約束の地、イスラエルに帰還することを意味します。
ユダヤ機関 (Jewish Agency):
 1929年 C.ワイズマンによって創設され、エルサレムに本部をもつユダヤ人の国際的機関。パレスチナにユダヤ人の本拠を設けるというシオニストの計画の対外機関。パレスチナへのユダヤ移民の監督、ユダヤ系経済組織の確立などに努める。

オリム (Olim):
 イスラエルに帰還するユダヤ人



写真
 上:ピャティゴルスクから今年の初めにアリヤーした若い家族

左:エベネゼルがアリヤー支援をしたモルドバからの家族

イスラエルを故郷とする!

ロシア/イスラエル



ダニエラ・モル
Danielle Mor
イスラエルのユダヤ機関、
イスラエル&グローバル
慈善活動団体
クリスチャンフレンズ
ディレクター&副会長

イスラエルのユダヤ機関のダニエル・モルは、エベネゼルにとって素晴らしい友です。彼女はロシア極東で生まれ育ったエウゲニからの手紙を分かち合ってくれました。

「私は1987年に、ロシア極東のハバロフスクで生まれました。私の家族はもともとはウクライナ出身です。私の祖父母はハバロフスクでの仕事を提供されました。その時には、その仕事は短期の予定でした。しかし、実際には、彼らがユダヤ人だったため、旧ソ連政府はすべてのユダヤ人を極東へ移動させようとしたのです。私の祖父母はそうとは知らず、言われた通りを信じてスーツケースだけを持って、短期の予定で極東へ向かいました。そして、ウクライナの家族の元へすぐに戻れると思っていました。その後何年もたちましたが、彼らがウクライナへ戻ることはかないませんでした。そこで亡くなった彼らは、カバレロボ村に埋葬されています。

1986年に私の両親は結婚し、その一年後に私が生まれました。高校卒業後、大学では法律の勉強をしました。私はいつも自分のユダヤルーツについて興味を持っていたので、詳細にわたる家系図を作り、それを完成させるために、旧ソ連に住む遠い親戚のところにも訪ねて行きました。

私がタグリットの若い人達のツアーでイスラエルを訪れた時に、ヤドバシエム(ホロコースト博物館)に行きました。そこで、私の民がどのよう

な扱いを受けてきたかを見てショックを受けました。私の民、ユダヤ人だけではなく、私自身の親戚(4歳の子供もいました)もナチスによって殺害されたのです。私は彼らの写真を見た時に、恐ろしくなりました。しかしそれとともに、イスラエルの国を強めるために私は何かをしなければならぬという思いを持ちました。

私は学べば学ぶほど、イスラエルが私にとって深い意味を持つようになり、もっとイスラエルへ帰還したいという思いが強くなりました。それはただ精神的な愛着心によるものではなく、私は自分の子どもたちは私とは違う人生を生きてほしい、政府が本当に国民のことを守ってくれるような場所に住んでほしいと願ったからです。そして今私たちは海の近くのナタンヤという場所に住んでいます。そして、新しい生活に対する期待感でいっぱいです。

写真
イスラエルに到着したエウゲニ(左)



家族とともにイスラエルでの生活を楽しむ(右)



とりなしへの呼びかけ

エベネゼル出エジプト作戦が生まれたのは、エルサレムの祈りの大会の中で、主が今こそユダヤ人がアリヤーするのを支援する時だと啓示された時でした。ですから、とりなしの祈りは、私たちの働きの中心となるものです。ここでは、とりなしがどのような意味を持つのかを見ていきたいと思います。

とりなすという動詞は、ラテン語では二つの部分から成り立っています。「中に」つまり間に立つ、という意味と、「行く」という意味です。すなわち自分自身を間において、人々の必要のために神様の前に出るということです。とりなしの土台は、共感です。すべてのとりなしの陰には愛があります。私たちはただ愛する人々の苦しみに共感するところからとりなしがなされるのです。

究極のとりなし手はイエスキリストであり、この方は私たちの身代わりに十字架で死んでくださり、父なる神と私たちの間に立ってとりなしてくださったのです。(イザヤ書53章6、12節)

神様はとりなし手を探しておられますが、いつも

見つけられるわけではありません。

「わたしがこの国を滅ぼさないように、わたしは、この国のために、わたしの前で石垣を築き、破れ口を修理する者を彼らの間に捜し求めたが、見つからなかった。」(エゼキエル書22章30節)

神様はすべての信者をとりなしへと召しておられます。なぜなら、神様は御自分の教会を祈りの家とすることを願っておられるからです。このことは使徒の働き12章で教会全体(とりなしに特別に召された人達だけでなく)がベテロのために祈っていました。彼は牢につながれていました。(使徒の働き12章5節)とりなしは神様を動かし、時には神様のお考えさえも変えさせるものなのです。(出エジプト記32章14節)

神様のすべての目的が成就し、神の教会が一つのとりなしのからだとなるまで、ただ一人の人であっても破れ口に立って祈るならば、それは大きな違いをもたらすものなのです。あなたはその一人の人となる思いがありますか？

祈り



ミッシェラ・モロッティ
Michela Morotte
イタリア
祈りのコーディネーター

リチャード・ゼベヌイゼン：献身的な人生

エベネゼルオランダ代表を務めてきたリチャード・ゼベヌイゼンは、8月19日に天に召されました。病によって彼の献身的な人生が閉じられたのですが、主はオランダのエベネゼルの働きを導くために、彼に奇跡的な力を与え続けてくださいました。

リチャードは1991年以来エベネゼルの働きをされました。その間に、彼は東シベリアで3か月の間チームでユダヤ人の家族を探し出す旅をされました。2002年には彼は妻のジャネットとともにオデッサからハイファへの船で往復して祈りの旅をされました。その後リチャードはオランダのエベネゼル理事となり、2008年には議長、2009年にはエベネゼルオランダコーディネーターになりました。リチャードは世界中にエベネゼルの友がいました。彼らはみなリチャードの愛と献身に本当に感謝していました。

理事会においては、彼はイスラエルに焦点

を合わせオリムへの働きに集中する人でした。彼はいつも理事会がどのように一致し 霊的成熟において成長できるかを求めています。彼は全身全霊でエベネゼルの働きに献身されていました。

オランダ



写真
リチャードとジャネット
エルサレムにて



私たちの予定が中断された時

ブルキナ・ファソ



アブラハム・ミロゴ
Abraham Millogo
ブルキナ・ファソ
エベネゼルコーディネーター

神のことばは、世界がたとえ混乱していても、私たちは恐れてはならないと語っています。(詩篇46章2節)ブルキナ・ファソでは、2020年に、教会の様々な活動が活発になり前進するプロジェクトを用意していました。しかし、コロナ禍によってすべてが中断されてしまいました。

教会を訪問したり、いろいろな人々のためにとりなしの祈り会を催したりすることができなくなったので、SNSのネットワークを通して教えや祈りを配信することにしました。私たちにとって、このニュースレターが何百人もの人によって読まれていることを感謝しています。しかしもっと重要なことは、今まで出会うことができなかった多くの兄弟姉妹たちとつながることができるようになったことです。なぜなら、ニュースレターを受け取った人達が、他の人達に送るようになったからです。私たちのラジオプログラムを聞いたことのなかった人達も、今ではSNSのネットワークを通じて、国外からでさえも、いつでもどこでも教えやメッセージを読むことができるようになったのです。

また、コートジボアールにおいて、とりなしの

活動を始めることができるようにしてくださったことを主に感謝します。主がこれを成功させてくださることを、私たちは堅く信じています。実際に会うことができなくても、ズームを通してクリスチャン達に教えをすることが可能になったからです。

もう一つの祝福は、私たちの支部の引越しのために祈った時のことです。友人が親切にも彼の持っている建物の一部を一年間無料で提供してくださったのです。そこは以前とは違って静かな場所にあるので、静まって祈ることができる良い場所なのです。主をほめたたえます!

ですから、私たちは、神様のみことばに励まされて前進します。詩篇46章6、7節にはこう書いてあります。

「国々は立ち騒ぎ、諸方の王国は揺らいだ。神が御声を発せられると、地は溶けた。万軍の【主】はわれらとともにおられる。ヤコブの神はわれらのとりである。」





制限の中におけるアリヤー

「見よ。その日が来る。——【主】の御告げ——その日、わたしは、わたしの民イスラエルとユダの繁栄を元どおりにすると、【主】は言う。わたしは彼らをその先祖たちに与えた地に帰らせる。彼らはそれを所有する。」エレミヤ30章3節

神様のみことばは決して制限されることはないことを主が示してください、主の忠実さに感

謝しています。アリヤーは、南アメリカから、自粛と制限のただ中でも、継続しています！ウルグアイからのオリムが帰還しています。また、反ユダヤ主義が台頭している状況下においても、コルドバにおいて、困窮したユダヤ人家族への人道的支援がなされています。どうか、南アメリカからアリヤーがさらに起こされるようにお祈りください！

南アメリカ



南アメリカ
エンリケ・ポラス
Enrique Porras
地域コーディネーター



イスラエルに向かって

経済的な問題と仕事での裏切りを通して、このチリの家族は自分達の将来はイスラエルにあると決心しました。

ハンスとデボラには4人の子供がいました。デボラの家族の中にすでにイスラエルに帰還している人達がいることから、何年も前から彼らもアリヤーの可能性について考えていました。しかし深刻な経済的な問題が引き金となり、彼らはアリヤーする決心をしました。もう一つの理由はハンスの仕事の取引についてでした。彼は事業を起こしていまし

たが、彼の家族の一人が彼をだましていたことを知りました。新しい事業をまた始めましたが、再度だまされて事業は失敗しました。

このようなトラウマ的な体験が引き金となり、この家族はチリを出てイスラエルで新しい出発をすることに決めました。エベネゼルの支援もあり、彼らはビザを取得し今は現地で新しい生活を始めたところです。神様がイスラエルにおいて彼らを祝福してください、彼らの夢がかなえられますように！

チリ/イスラエル



ダニエラ・マークウォルダー
Daniela Markwalder
メキシコチーム



写真
ハンスとデボラが二人の子供たちと一緒にサンティアゴ空港を出て24時間後に無事ベングリオン空港に到着

隠れ場の家

イスラエル



ジェレミー・スミス
Jeremy Smith
イスラエルコーディネーター

エベネゼルのハイファの家はロックダウン中でさえ、新しい移民を受け入れ続けてきました。コロナ禍の自粛政策により多くの人々が仕事を失いました。ですからハイファの家は、イスラエルでの新しい道を探す人々のための隠れ場となりました。最近ではロシア人の家族と、アルゼンチンの女性、そしてフレデリコの家となりました。彼らは、この家を管理しているマルクスとラヘルとともにそこに滞在しています。フレデリコからの手紙を紹介いたします。

「私は29歳で、ウルグアイのモンテビデオで生まれ育ちました。2015年にギリシャで難民危機があった時に、私は人道的支援に対する思いが強まり、私は何かをしなければならぬと感じました。

私は広報の仕事をしていましたが満足できませんでした。なぜなら、私には別の関心があったからです。その後私は演劇やピエロを始めました。そして医療ピエロというものがあることを知り、それが私にとって節目となりました。3年間ボランティアやアーティストとして働いてから、奨学金を申請し、イスラエルで医療ピエロとしてドリームドクタープロジェクトの中で働き始めました。

その後ウルグアイに戻り、私自身の医療ピエロプロジェクトを行う決心をし、NGOの資金集めのためにストリートパフォーマンスなどをしました。事業計画書も提出し、面接も受けました。ところが、コロナ禍の中で、私がしてきたすべてが消え去ってしまったのです。

それで、私は自分の目標を再設定しなければならなくなりました。それで、私は英語の能力を生かして英語の教師になることにしました。テルアビブにTESOL(外国語としての英語教育)のプログラムがあることを知り、人道支援と言語教育を両立できる道を進むことにしました。4つの奨学金を受けることができるようになり、ウルグアイ教育省大臣からの推薦状もいただくことができました。

私がこの新しい道を進むのを支援してくださったエベネゼルに心から感謝します。そこですばらしい人達やボランティアやオリムに出会うことができました。マルクスとラヘルは初日から私を大歓迎してくださいました。同じ屋根の下で、私たちはイスラエルのエレッツにおいて、新しい生活を作るためにともに働いています。私はイスラエルで最初の家を見つけることができました。そしてこの家を忘れることはないでしょう。」



写真

フレデリコ(右)がイスラエルでの生活に満ち足りている様子。



Operation Exodus

Ebenezer Operation Exodus
International & UK Office
PO Box 9103, Bournemouth
BH1 9DA, UK
+44 (0) 1202 294455
enquiries@ebenezer-ef.org
www.operation-exodus.org



Operation Exodus USA
PO Box 568 Lancaster NY 14086
Phone: 716 681 6300
info@ebenezerusa.org
www.ebenezerusa.org



エベネゼル緊急基金日本支部

〒062-8691 豊平郵便局私書箱 37号
Tel&Fax: 011-813-3558 (岡田)
office@ebenezerjapan.org
http://ebenezerjapan.org/
郵便振替(名称)エベネゼル緊急基金
(番号)02710-0-55842

Operation Exodus(出エジプト作戦)はエベネゼル緊急基金の実際的な働きの名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の計画と目的を宣言するべく1991年に3人の人から始まりました。

イギリス本部、アメリカ、スイス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた25カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実際的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。